

# 授業改善アンケート 結果集計表

2019年度前期

分類名 大学全体

履修者数(延)	45544 名
回答者数(延)	36004 名
回答率	79.1%

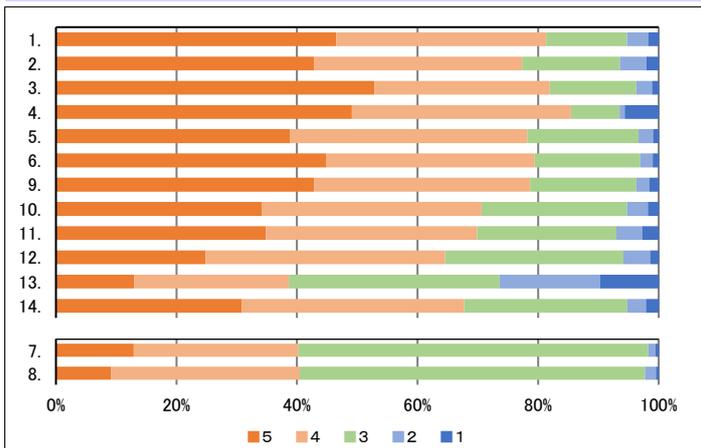
## 項目別回答分布(SQ12・SQ14は複数回答可)

設問	全体平均	平均(今回)	5	4	3	2	1	無効
1. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか。 ⑤ 明瞭 ④ ほぼ明瞭 ③ どちらとも言えない ② やや不明瞭 ① 不明瞭	4.21	4.21	16715	12537	4806	1275	624	47
2. 板書やスライド、手本や見本は見やすかったですか。 ⑤ 見やすい ④ 比較的見やすい ③ どちらとも言えない ② やや見にくい ① 見にくい	4.12	4.12	15335	12383	5814	1566	735	171
3. プリント・スライド・VTR等の教材は、授業の理解を深めるのに役立ちましたか。 ⑤ 役に立った ④ 少し ③ どちらとも言えない ② あまり ① 役立たなかった	4.30	4.30	18888	10394	5151	929	389	253
4. 講義は講義細目の通りでしたか。 ⑤ その通り ④ ほぼその通り ③ 少し違った ② かなり違った ① 読まなかった	---	---	17521	12982	2863	309	2014	315
5. あなたはこの授業に積極的な姿勢で臨み、主体的に学びましたか。 ⑤ そう思う ④ ややそう思う ③ どちらとも言えない ② あまりそう思わない ① そう思わない	4.13	4.13	13892	14106	6616	859	331	200
6. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか。 ⑤ 適切だった ④ ほぼ適切だった ③ どちらとも言えない ② やや不適切 ① 不適切だった	4.20	4.20	16038	12338	6260	736	357	275
7. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか。 ⑤ 多い ④ やや多い ③ 適切 ② やや少ない ① 少ない	---	---	4626	9797	20816	445	181	139
8. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか。 ⑤ 高すぎる ④ やや高い ③ ちょうどよい ② やや低い ① 低すぎる	---	---	3296	11197	20514	650	168	179
9. 教員の熱意は伝わりましたか。 ⑤ 伝わった ④ ほぼ伝わった ③ どちらとも言えない ② あまり伝わらなかった ① 伝わらなかった	4.16	4.16	15323	12831	6314	760	568	208
10. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか。 ⑤ 工夫されていた ④ 比較的工夫されていた ③ どちらとも言えない ② あまり工夫されていなかった ① 工夫は見られなかった	3.98	3.98	12220	12990	8605	1256	631	302
11. あなたはこの授業を通して、学ぶことの大切さや楽しさ(面白さ)を感じられましたか。 ⑤ 感じられた ④ やや感じられた ③ どちらとも言えない ② あまり感じられなかった ① 感じられなかった	3.95	3.95	12448	12504	8269	1518	988	277
12. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか。 ⑤ よく理解できた ④ ある程度理解できた ③ 少し理解できた ② あまり理解できなかった ① 全く理解できなかった	3.82	3.82	8810	14119	10504	1564	512	495
SQ 12. 「あまり」または「全く」理解できなかったと回答した人は、その原因を選んでください。 ⑤ 自分の勉強不足 ④ 勉強の仕方がわからない ③ 専門用語などが難しい ② 授業のポイントが不明 ① その他	---	---	314	382	456	670	120	399
13. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか。 ⑤ した ④ ある程度した ③ 少しした ② ほとんどしない ① 全くしない	3.15	3.15	4535	8957	12206	5801	3408	1097
14. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか。 ⑤ 満足 ④ ほぼ満足 ③ どちらとも ② やや不満 ① 不満	3.91	3.91	10125	12094	8884	1005	699	3197
SQ 14. 「不満/やや不満」と回答した人は、この授業で改善が必要だと思うことを選んでください。 ⑤ 学習の仕方等の指導法 ④ 1回の授業の量や授業全体のレベル ③ 板書の仕方や話し方など ② 配布資料などの教材 ① その他	---	---	392	300	534	209	145	439
15. (担当教員独自設問)	---	---	1046	1113	1052	325	190	32278
16. (担当教員独自設問)	---	---	781	770	667	196	202	33388
17. (担当教員独自設問)	---	---	360	374	375	104	127	34664

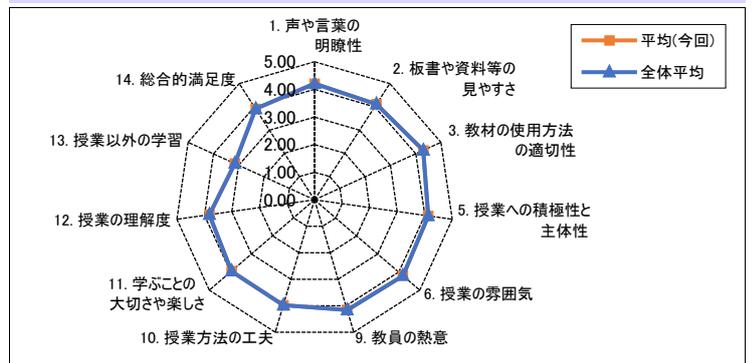
## クロス集計(授業参加×満足度・理解度×満足度)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問14 満足度					
		5	4	3	2	1	無効
5. 積極参加(4・5)	4.15	9761	10727	4305	444	249	2512
5. 消極参加(1・2)	2.51	36	138	461	215	272	68
12. 理解度高(4・5)	4.33	9516	9119	2038	185	84	1987
12. 理解度低(1・2)	2.40	36	137	888	457	470	88

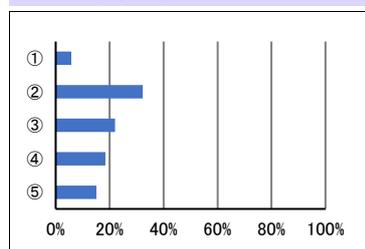
## 100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



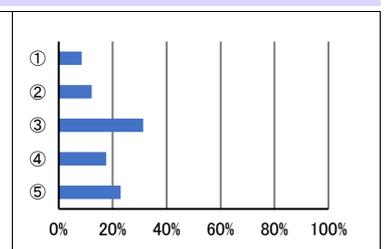
## レーダーチャート



## SQ12. 改善意見



## SQ14. 改善意見



# 授業改善アンケート 結果集計表

2019年度後期

分類名 大学全体

履修者数(延) 37604名

回答者数(延) 28831名

回答率 76.7%

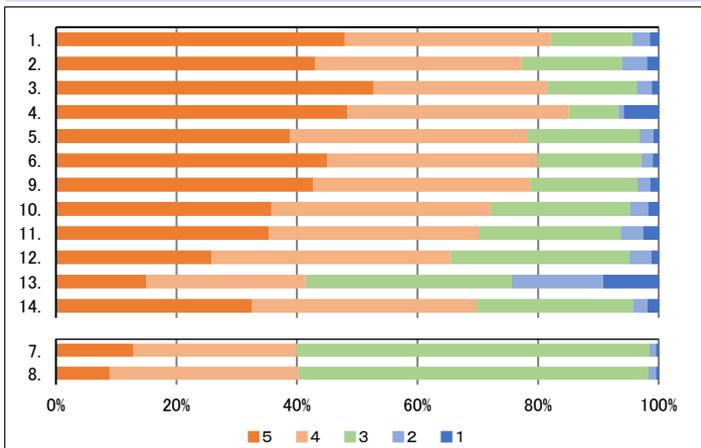
## 項目別回答分布(SQ12・SQ14は複数回答可)

設問	大学平均	平均(今回)	5	4	3	2	1	無効
1. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか。 ⑤ 明瞭 ④ ほぼ明瞭 ③ どちらとも言えない ② やや不明瞭 ① 不明瞭	4.24	4.24	13788	9832	3886	842	426	57
2. 板書やスライド、手本や見本は見やすかったですか。 ⑤ 見やすい ④ 比較的見やすい ③ どちらとも言えない ② やや見にくい ① 見にくい	4.12	4.12	12336	9819	4798	1193	556	129
3. プリント・スライド・VTR等の教材は、授業の理解を深めるのに役立ちましたか。 ⑤ 役に立った ④ 少し ③ どちらとも言えない ② あまり ① 役立たなかった	4.29	4.29	15093	8231	4265	716	330	196
4. 講義は講義細目の通りでしたか。 ⑤ その通り ④ ほぼその通り ③ 少し違った ② かなり違った ① 読まなかった	---	---	13820	10484	2372	242	1658	255
5. あなたはこの授業に積極的な姿勢で臨み、主体的に学びましたか。 ⑤ そう思う ④ ややそう思う ③ どちらとも言えない ② あまりそう思わない ① そう思わない	4.13	4.13	11127	11280	5345	656	259	164
6. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか。 ⑤ 適切だった ④ ほぼ適切だった ③ どちらとも言えない ② やや不適切 ① 不適切だった	4.21	4.21	12878	9964	4927	546	286	230
7. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか。 ⑤ 多い ④ やや多い ③ 適切 ② やや少ない ① 少ない	---	---	3689	7782	16801	318	126	115
8. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか。 ⑤ 高すぎる ④ やや高い ③ ちょうどよい ② やや低い ① 低すぎる	---	---	2558	8988	16652	344	136	153
9. 教員の熱意は伝わりましたか。 ⑤ 伝わった ④ ほぼ伝わった ③ どちらとも言えない ② あまり伝わらなかった ① 伝わらなかった	4.16	4.16	12227	10322	5110	586	410	176
10. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか。 ⑤ 工夫されていた ④ 比較的工夫されていた ③ どちらとも言えない ② あまり工夫されていなかった ① 工夫は見られなかった	4.01	4.01	10201	10348	6626	898	474	284
11. あなたはこの授業を通して、学ぶことの大切さや楽しさ(面白さ)を感じられましたか。 ⑤ 感じられた ④ やや感じられた ③ どちらとも言えない ② あまり感じられなかった ① 感じられなかった	3.97	3.97	10111	9946	6728	1071	745	230
12. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか。 ⑤ よく理解できた ④ ある程度理解できた ③ 少し理解できた ② あまり理解できなかった ① 全く理解できなかった	3.85	3.85	7344	11275	8462	1036	336	378
SQ12. 「あまり」または「全く」理解できなかったと回答した人は、その原因を選んでください。 ⑤ 自分の勉強不足 ④ 勉強の仕方がわからない ③ 専門用語などが難しい ② 授業のポイントが不明 ① その他	---	---	158	222	317	466	73	286
13. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか。 ⑤ 多し ④ ある程度した ③ 少しした ② ほとんどしない ① 全くしない	3.23	3.23	4193	7382	9597	4251	2571	837
14. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか。 ⑤ 満足 ④ ほぼ満足 ③ どちらとも ② やや不満 ① 不満	3.96	3.96	8560	9822	6878	652	488	2431
SQ14. 「不満/やや不満」と回答した人は、この授業で改善が必要だと思うことを選んでください。 ⑤ 学習の仕方等の指導法 ④ 1回の授業の量や授業全体のレベル ③ 板書の仕方や話し方など ② 配布資料などの教材 ① その他	---	---	231	182	313	160	99	328
15. (担当教員独自設問)	---	---	501	455	498	139	142	27096
16. (担当教員独自設問)	---	---	415	380	311	86	100	27539
17. (担当教員独自設問)	---	---	314	246	268	83	112	27808

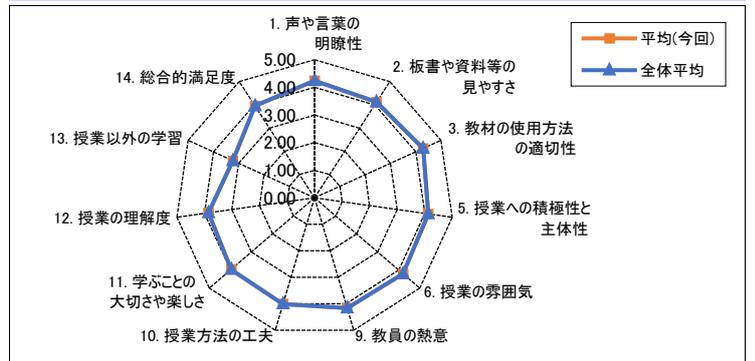
## クロス集計(授業参加×満足度・理解度×満足度)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問14 満足度					
		5	4	3	2	1	無効
5. 積極参加(4・5)	4.20	8285	8649	3149	271	163	1890
5. 消極参加(1・2)	2.52	31	97	376	157	211	43
12. 理解度高(4・5)	4.37	8035	7491	1411	98	47	1537
12. 理解度低(1・2)	2.35	29	76	564	305	346	52

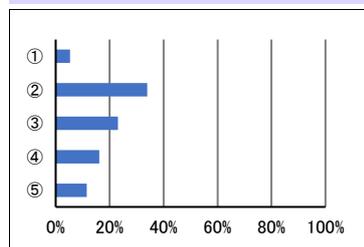
## 100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



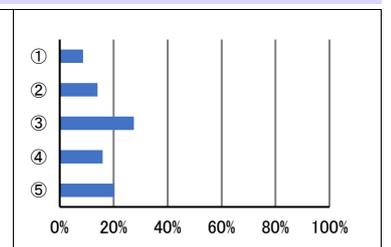
## レーダーチャート



## SQ12. 改善意見



## SQ14. 改善意見



## 2019 年度前期・後期授業改善アンケート結果について —各学科・センターによる振返りと学生へのフィードバック—

### ●生命科学科

#### 【授業の良かった点・課題など】

- ・授業以外の学習を増やすために、提出課題などを設けていく。また、学生に、自ら積極的に学ぶ姿勢を身に着けさせる必要がある。
- ・東京西キャンパスに比べ、千住キャンパスの学生の総合的な満足度がやや低い。普段、千住の学生の方が、出席率が良く、遅刻の割合も少ないが、学生数が多いことで学生一人一人の授業内容への積極参加の意識が希薄になるのだろうか。
- ・プリント配布に対する学生の要望が多かった。できるだけプリントや資料を学生に配布していく必要がある。

#### 【学科の対応】

- ・「8. 授業のレベル」に対しては、「やや高い」と「ちょうどよい」と回答する学生の割合が多い。質の高い授業内容を維持するため、教員は、学生が感じるより、やや高めの授業レベルを目指している。今後も現在の授業レベルを維持していきたいと考えている。
- ・今回から授業改善アンケートは、原則全科目が対象となった。よって前回の結果と今回の結果とを単純に比較することはできないと考えている。今後、前期・後期も含め対象科目を同じにしてアンケート結果を比較し、改善点を精査していきたい。

#### 【アンケート結果に基づいた学生への回答】

- ・内容の一部にはやや難易度の高いものも含めるようにして、全体としてある一定の授業レベルを保つように心がけている。できるだけ理解しやすい説明を行うことを心掛けているが、自分でも図書などで調べてみたり、教員に質問したりして、難しい部分にも積極的に挑戦してみしてほしい。
- ・できるだけ内容も分かりやすく、見やすいプリントを作成し、積極的に配布したい。カラープリントも含め、配布物は積極的に準備したい。
- ・印刷物だけでなく、授業のパワーポイント資料などを CampusSquare に掲示するなど改善していく。著作権については明確化して対処したい。

#### 【学生への要望】

- ・これまでの懸念事項であった「13. 授業以外の学習」に改善が見られたことを評価したい。教員は、さらに授業を改善する努力を続けるとともに、引き続き、学生に対して授業以外の学習を促していきたい。授業内容に対する理解を積極的に深めてもらいたい。

## ●自然環境学科

### 【総括】

- ・授業内容に関係したテーマに関して学生自身が調べ、それを発表することを2週にわたって行うことにより、「学ぶことの大切さや楽しさ」と「満足度」の結果が平均より高くなった。そのようなことから、学生に発言する機会を与えることにより、授業に参加していることをより意識することができ、また満足感・達成感を味わうことができるようである。
- ・専門的な科目の授業内容の理解については「ある程度理解できた」の割合が最も高かった。十分理解できなかった要因として、「専門用語などが難しい」、「勉強の仕方がわからない」、また予習・復習など授業時間以外での学習をした割合が少なかったことが考えられる。
- ・身近な環境問題を教材に取り上げることにより、興味を持ちやすく、また授業に取り組みやすく、理解を深めるのに役立つことがわかった。
- ・基礎的な科目は興味を持ちづらいと感じる学生も多く、いかに関心を持たせる授業を行うかが今後の課題である。

### 【改善策について】

- ・学生が発表する機会を多く作り、達成感・満足度を高めるように努めたい。
- ・レポートや専門用語などの調べ学習や小テストの実施回数を増やしたりすることで、理解度を確認したり知識が定着するように努める。また、講義の内容に関連する書籍やホームページなどを記載することで、授業外でも学べる機会を増やしたい。
- ・授業時間以外の学習時間が少ないので、予習・復習に相当する課題をいかに取り組みやすくするかも必要である。
- ・スライドや授業の進みが速いとの指摘があったので、学生の様子を見て質問やディスカッションなどを行いながら進めていきたい。
- ・少しでも授業に興味を引くよう身の回りで起こるような出来事なども積極的に授業に取り入れていきたい。

## ●アニマルサイエンス学科（東京西キャンパス）

### 【総括】

学生の側から、授業に関して改善すべき点として多かった意見は、①板書やスライドが見づらかった、②授業中のスライドショーについて、次のスライドに進むのが速くノートが取れなかった、③レポート提出までの期間が短すぎる、などに集約された。

担当する授業で、改善すべき点を受講学生から折に触れて吸い上げ、その意見をもとに授業にフィードバックを行っている教員に対する学生の評価はそうしない教員に比べて高く、またアンケートにおける不満は少ない傾向にあるようだ。

### 【2020年度に向けての改善策】

アニマルサイエンス学科東京西キャンパス内でアンケート結果について討議した。

すでに学生意見のフィードバックを取り入れている教員の意見を参考にした結果、①から③の学生意見に対して、以下のような改善策が提案された。

- ・授業後の「コメントシート」記入を実施することで、学生からのフィードバックを講義に活かす。
- ・基本的な講義の構成ではなく、「コメントシート」の実施回数を増やして、フィードバックにこまめに応えるといった取り組みを行って改善を図る。
- ・スライド送りが速くてついていけないという意見に対しては、虫食いの配布資料を配り、キーワードのみ書きとれば良いように工夫する。

アニマルサイエンス学科東京西キャンパスでは、以上の意見を教員全員で共有し、今年度の講義の実施に活かすことにしている。

## ●アニマルサイエンス学科（千住キャンパス）

### 【学生からのコメントと対策】

授業資料のキャンパススクエアへの掲示時期及び掲示期間

<改善点>

- ・キャンパススクエアへの掲示は、プリントアウトする時間なども考慮のうえ、早めに行うことを心がける。
- ・本来であれば授業前のダウンロードが前提であるが、掲示期間は長めに設定する。

### 【アンケート全体を通じての問題点と改善点】

- ・評価結果や寄せられたコメントを通じて、教員側の授業の準備や進め方、板書の書き方などについて、個々の教員が改善すべき点が多々あることは明白である。
- ・急な休講や補講の設定、試験日の変更などは学生に負担をかけるので、極力控えるべきである。また、資料の配布などについて期日を厳守する。
- ・配布資料を頼りに、試験のための勉強をしている学生が多い様に思われる。個々の学生がノートをまとめ、知識を蓄積することが授業の目的であることを認識してもらう必要がある。新入生の時点で、大学生としての授業の受け方を教えるなどの対応を検討したい。
- ・授業についてこられなくなる学生が、一定数存在する。やる気のある学生の満足度を満たし授業の質を保ちながら、これらの学生に対処することは難しい課題である。特に本学科は学生数が多く、レポートや小テストなどでの状況把握が困難である。また、アクティブラーニングなどの手法も導入しづらい。今後、複数クラス体制による授業の導入を検討すべきである。

## 1. 前後期科目のアンケートの分析および総括

前期，後期ともに「教員の言葉の明瞭さ」，「授業資料の見やすさ」，「教材の活用」，「適切な受講環境の確保」，「授業方法の工夫」，「教員の熱意」などの教員の姿勢に関する項目で平均 4.1 以上（5 が適切，1 が不適切），“授業に積極的に臨めたか”，「学ぶ大切さを感じたか」，“授業を理解することができたか”，「予習や復習を行ったか」，“総合的に授業に満足できたか”などの学生に関する項目で平均 3.8 以上となっており，高水準の結果が示された（図 1，2）。

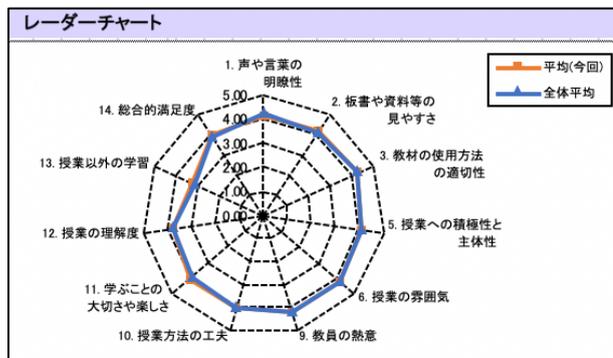


図 1. 前期授業改善アンケート結果

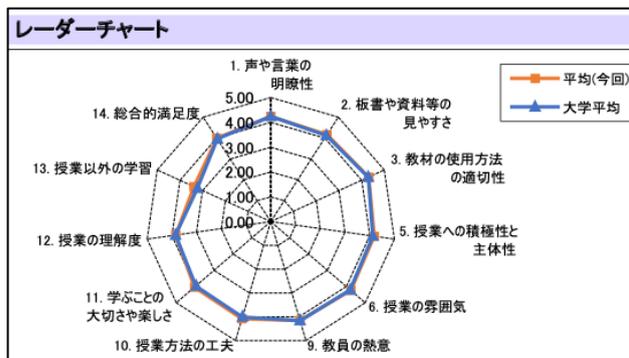


図 2. 後期授業改善アンケート結果

学生のアンケート記載内容と教員の自己分析を整理すると、『少人数制での授業』，『小テストや復習テストの積極的な導入』，『国家試験を見据えた学習支援』などに好意的な意見が挙がっていた。これらの取り組みは，学生一人一人に丁寧な指導が行える他，学修の進捗状況を確認しながら授業展開できるなどの利点があるため，好意的な意見が集まったものと考えられる。また，臨床で実際に業務している理学療法士への外部講師依頼についても好意的な意見が寄せられており，臨床像をイメージしながら学修を行うことで，学修への積極的な姿勢を引き出したものと考えられる。

一方，科目によっては教員の教え方や授業資料，授業環境の改善を求める意見，集団学習を行う際の学生割り振りに関する意見など，様々な具体的な意見を取り上げることができた。これらの意見に関しては一科目に向けた意見と捉えるだけではなく，学科で共有し，学科全体でより良い授業が展開できるよう取り組んでいく必要があると考える。

## 2. 今後に向けた理学療法学科の改善策

前項でも述べたが，授業改善を科目単位だけでなく学科単位で考える上で，全体のバランスも考える必要がある。少人数制授業は丁寧に行える一方で複数教員の参加を要するため，履修をしていない学生の授業外対応が困難となる可能性もある。また，小テストなどの取り組みも，全ての科目で行えば学生への負担が大きくなり，学習意欲を低下させてしまうことも考えられる。そのため，学科ではこれまで授業コマ数や課題量の調査を行い，情報の共有を図っている。今後も科目毎の授業改善は共通の課題として持ちつつ，学生が主体的に学修を行える環境づくりを目指し，学習指導方法や課題量の整理，調整を継続的に行っていく予定である。

## ●作業療法学科

学科全体の集計結果において、比較的低い項目は「言葉が明瞭で聞きやすかったか」「板書、スライド、手本や見本は見やすかったか」である。これらは大学全体平均よりも最大で 0.07 ポイント低い、いずれも学科平均値は 4 ポイントを上回っている。

対して、大学全体の平均より点数が高かった項目は「プリント、スライド、VTR の教材は授業の理解を深めるのに役立った」「私語について注意するなど受講環境の適切な確保をした」「教員の熱意は伝わった」であった。いずれも 4 ポイントを上回り、さらに 2 項目は大学平均より学科平均が高い。

教員の熱意はあるが、学生が理解しやすい教育方法を十分に検討しさらに工夫することが必要と思われる。

「授業を通して学ぶことの大切さや楽しさ、面白さを感じられたか」の項目は学科平均では高くはなく、さらに大学全体平均よりも下回っている。「授業内容はどの程度理解できたか」の項目では学科平均は低く、さらに大学平均よりも低い。ただしこの項目は、教育力も問われるが、学生自身の理解力なども影響してくる項目といえる。

「予習・復習など授業時間外で学習したか」の質問のポイントは低くこの項目は学生自身の問題といえるが、学生が予習・復習をしたくなるような教育方法も教員が行うべき工夫といえる。

後期はすべての項目で大学全体平均よりも学科平均のポイントが高い。前期にポイントが比較的低かった項目は後期についてはその傾向はない。

前期後期を通して、「講義細目を読まなかった」学生が多いが、授業開始時に注意を喚起することが必要かもしれない。

全体を通しての結果は大学平均を学科平均が上回っていたが、さらに教育方法を教員が検討し、学生自身が能動的に学ぶ姿勢を持つことができる工夫が必要と思われる。受け身となる学習方法では時間を長く取ったとしてもその効果は低い。教員からの一方的な講義ではなく、視覚的な教材を用いることや、講義科目内でも演習として学生が実体験しながら学ぶことが可能となる指導計画が必要と思われた。

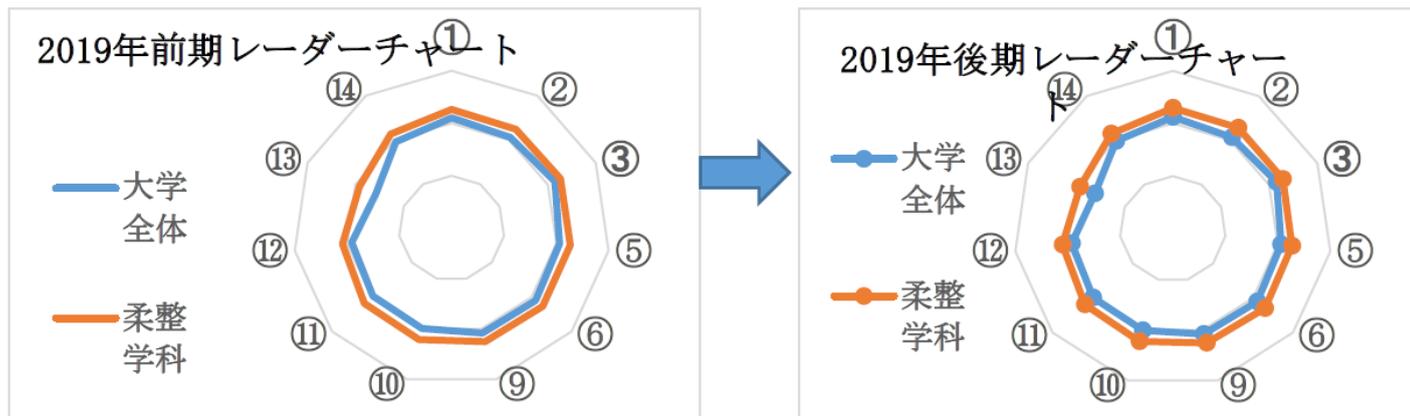
アンケート結果を各教員自身が分析し、具体的な計画案を教員間で検討することもよいと思われた。

●柔道整復学科

1. アンケート項目全体における全学平均と学科の前期と後期のデータ比較

グラフ1a

グラフ1b



上記グラフ 1ab において、全てのアンケート項目において学科のアンケート値は全学平均よりも高い。平均値を比較すると前期の学科・全学間で+0.4ポイント(+10.5%)、後期の学科・全学間においても同様の値を示した（それぞれの値の間には 95%有意差が生じていた）。また、それぞれの大学全体および学科における前後期値の比較を行うと、大学全体の平均値で後期の値が高く+0.2 ポイント(+5%)、学科の値でも後期の値が高い+0.03 ポイント(+0.7%)の上昇を示した。（それぞれの値の間には 95%有意差が生じない。）・・・データは示さない。

上記グラフではアンケート各項目において、全ての項目値は学科値のほうが全学平均値よりも高く、特に⑬項目（授業以外での学修）においては、前期値および後期値ともに大学平均値と学科値の差が他に対して大きいことが示されている。

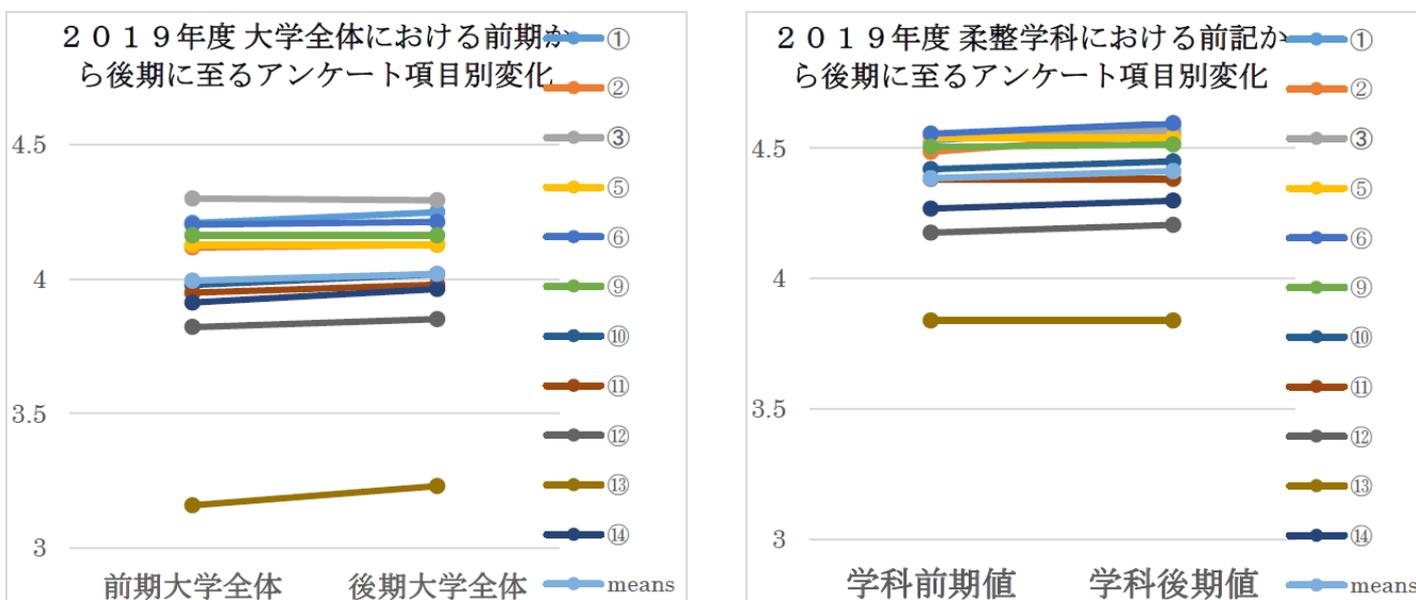
これらのことはアンケート項目について学科の値は平均値や項目において、大学平均値よりも学生による評価は高く、学科評価は大学平均評価よりも①-⑭のアンケート項目間による評価の差も少ないことが示される。

しかしながら、上記の項目別の大学平均のアンケート値と学科のアンケート値の違いはさらに詳細な分析が必要であると考えられるので以下の分析を行った。

2. アンケート項目ごとにおける全学平均と学科の前期と後期のデータ比較

グラフ2a

グラフ2b

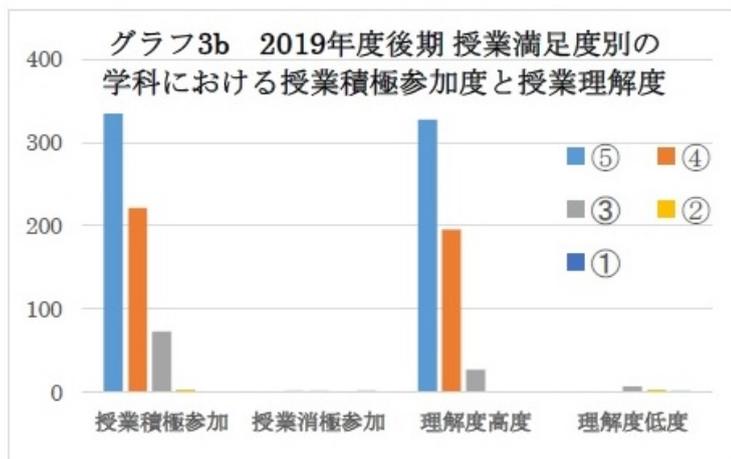
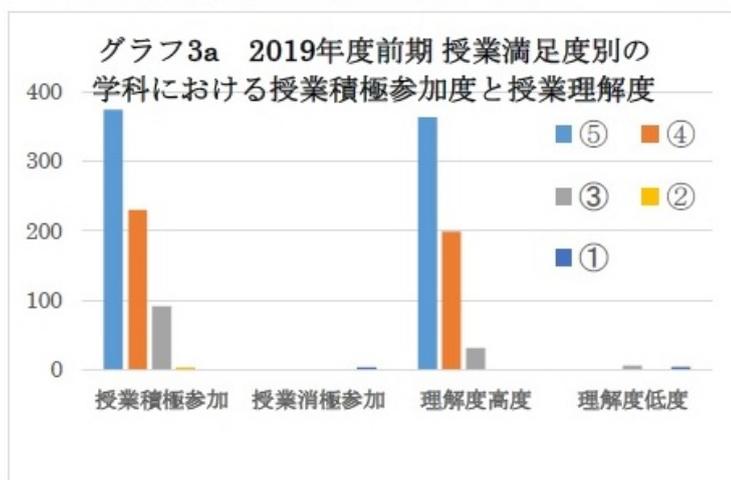


上記 2 ab グラフおよび大学全体および学科のアンケート値において、前期から後期にかけてアンケート値が低下したものはなかった。各項目①-⑭および平均値(means)において、グラフ 2ab の比較からも明らかに 2b グラフの値のほうがグラフ 2a より各アンケート値が高いことが示される。しかしながら、前期値と後期値の間には大学平均アンケート値および学科アンケート値(グラフ 2a および 2b)において前後期間には有意な上昇は見られなかった、(95%信頼限界。)また、2a および 2b から⑬はこのアンケート値項目のなかで最低値を示す。この⑬項目の値は大学および学科の前期及び後期のすべての時期において他のアンケート項目や平均値(means)との間に有意に低い(95%信頼限界)を示していた。

また、学科の値では⑫アンケート項目(理解力)や⑭アンケート項目(総合力)についての値が、他の項目との間に前期及び後期において低い値を示していた。この値にかんしては⑫項目は有意差(95%信頼限界)をもって差が示されていたが、⑭アンケート項目においては他の項目との間に有意差は生じない。

これらのことは、上記グラフ 1ab で曖昧であった結果を支持するうえで、詳細な分析として意味を成すと考えられる。したがって、これらの結果から項目ごとの大学平均値と学科値との間に明らかな差が生じているが、アンケート項目⑬、アンケート項目⑫、アンケート項目⑭の順に学科値としても低い値が生じている。すなわち、⑬大学以外での学修時間、⑫授業内容での理解度、⑭総合的な授業満足度において、学生は自分自身のことなのに素直にアンケート評価を低く示している。これらは何らかの学生からのメッセージである可能性が高いので、続いて分析を行う新しい必要が生じる。以下に、そのなかで昨年度からの新しい分析法であるクロス集計分析についての検討を行う。また、大学平均に比べて⑥、⑨、⑩の項目「教員が授業を工夫する」内容が特に高値を示していた。この項目は例年高い値が出現するので、学科の特徴が表出されていると考えられる。

### 3. 授業積極参加度と授業理解度におけるクロス集計分析



昨年度から始まったクロス集計分析では、項目別データ集計では直接できない内容として(1) 授業積極参加度と満足度(2) 授業理解度と満足度のクロス集計が行われた。

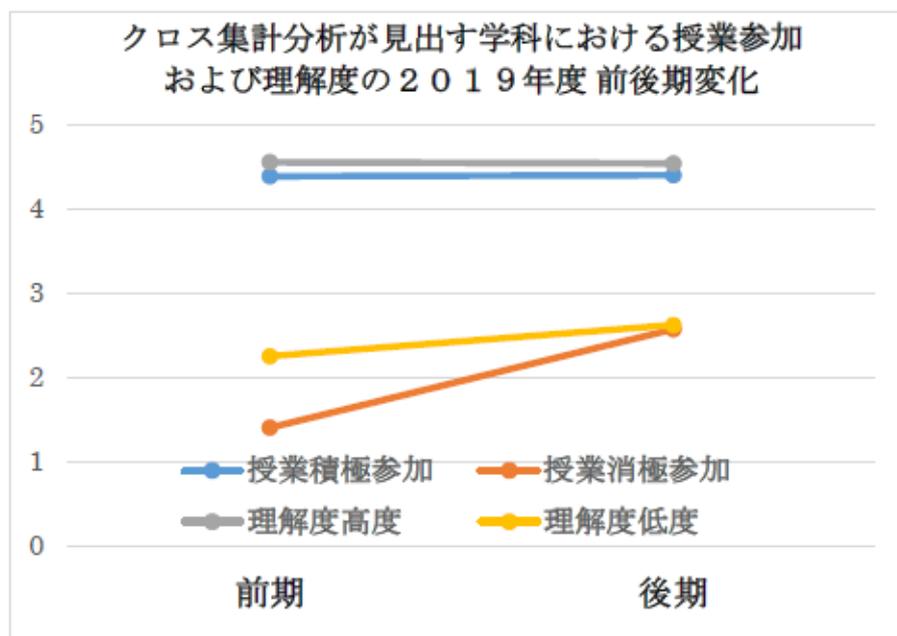
まず、これら上記(1)および(2)の分析に共通なデータである2019年前後期の授業満足度を分析した。(グラフ3a および3b)。このアンケート項目⑭は上記2での分析に用いた⑤満足、④やや満足、③どちらとも、②やや不満、①不満ということになり、グラフ3a および 3b に示されたアンケート値からは前後期にかけて全ての数値が低下しているように見られる

(授業積極参加前期→後期: ⑤374→344, ④221→221)が、これはアンケートに答えた学生のn数が低下しているためであり、グラフ3abに示されているように授業積極度および理解度ともに、じつは前後期とも同じ満足性に高い比率のプロポーションを示す。(データ記載なし)

つまり、このクロス集計では授業積極参加度や授業理解度の分析では、前後期とも同じ満足度であることが立証され、クロス集計分析のベクトル軸はそれぞれ授業積極参加度と授業理解度の違いによるものと考えられる。

ここでつぎに授業積極参加度や授業理解度の分析を行うと下記のグラフ 3c のようになる。

グラフ 3c



2019 年度前後期においての変化は、グラフ 3c に示されたように、授業理解度が高い学生や授業積極参加度が高い学生は前後期ともに 4.5 ポイント前後の高い値を示し大きな変化はないが、前期から後期にかけて授業消極的参加値が有意に上昇 (95%信頼限界): 前期→後期: 1.4→2.57 ポイント, また有意な差は生じないが、理解度低下値が前期→後期: 2.25→2.65 ポイントとなっている。これによって、前期から後期にかけて明らかに授業に消極的に参加しているポイントが大きく上昇している。

また、理解度が低下しているポイントも上昇傾向にあることも確かである。しかしながら、高い授業理解度や授業積極参加度も多く存在することも確かなので、学生が自分自身で感じた「授業に対する理解度や参加度」の二極化が進行している可能性があると考えられる。

#### 4. まとめ

1) 全体的なアンケート値から学科の授業は、大学平均値よりも全てのアンケート項目および平均値において高い値が出現する。特にアンケート項目のうち「⑬大学授業以外の学習」では大学平均値より有意に高い値が出現した。このことは他の学科に比してレポートや演習の強い学習指導が行われていると考えられる。

2) 前期から後期にかけて各アンケート項目において値が低下するものは出現しなかった。(大学、学科共に) アンケート項目のなかでは、大学、学科ともに⑬大学以外での学修時間、⑫授業内容での理解度、⑭総合的な授業満足度において他に比して有意に低い値が出現する。このことは例年のことであるが、特に⑬は低い値が出現する。これら3つのことは学生自分自身で理解していながらも解決することを見つけられない焦りや不安の表出によるものも考えられる(学科内統計による)ので、学生への心理的な積極的アプローチも必要であると考えられる。

学科の授業アンケートによる教員授業評価の特徴としては、特に⑥、⑨、⑩の項目「教員が授業を工夫する」内容が特に高値を示しており、教員の努力による学科の特徴が表出されていると考えられる。

3) クロス集計分析では、上記⑫授業内容での理解度、⑭総合的な授業満足度、⑤授業積極参加の深い分析を行った結果、総合的な授業満足度に前後期の差はなく、高い満足度を示していた。しかしながら、特に⑤授業消極参加度が後期に上昇しており、やはり学生の不安感が後期になって上昇してきたものであるものと考えられる。

この結果、少ないながらも授業参加において二極化が進行している可能性も考えられる。

また、一番懸念される⑬授業以外での学修における積極的分析指標が少ないので、今後はこの指標を検索する必要がある。

## ●東京理学療法学科

### 1. 2019年度前期

#### 【総括】

#### ■授業方法について

##### [良かった点]

- ・ 「予習・復習など、授業時間以外での学習機会」、「積極的な姿勢で臨み、主体的に学ぶ」ことが、引き続き、前年度前期から維持ができています。

##### [改善点]

- ・ 前年度前期の比較から「学生からの総合満足度」に関する項目では、微減（3.73 から 3.57）しており、大学全体の総合計（3.91）との比較でも、低下している。
- ・ 各細目において留意する点は、「板書やスライド、手本や見本の見やすさ」「授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていたか」、「あなたは授業内容がどの程度理解できたと思いますか」などが、大学平均または前年度後期より、特に低水準の数値となっている。
- ・ 上記より、学科の教育体制は、授業内・外における学習機会のサポートや学習の理解度に応じた課題学修も取り入れ、現在の方向性を維持しながら、専門職教育の質を向上させる取り組みを行っていく。

#### ■授業環境について

##### [良かった点]

- ・ 今回のアンケート結果からは特に見受けられない（自由記述欄を含む）。

##### [改善点]

- ・ 「授業内容が理解しにくい」というコメントもあり、視覚教材など理解が図れるような授業資料を準備し専門性を活かした学修機会を提供できるように構築していく。

#### 【今後に向けた改善策】

##### [科目に対する意見について]

- ・ 学科共通として、すでにほとんどの科目でレポート課題、小テストなどを実施している。
- ・ 授業内の対応は、音量やマイクの使い方について、頻回に学生の反応を確認することとする。
- ・ 理解度に関する項目ではまだ理解が十分でない学生も多い状況が確認されるため、授業理解を深められるように学科全体での取り組み・対応をしていく。
- ・ 授業時間以外での学習を「ほとんどしない」、「全くしない」学生もいるため、時間外学習を促す工夫を行っていく。
- ・ 今後は、学生の「授業以外の学習」の改善のために、毎回、自己学習に関するノートなどを提出させ、チェックすることを検討している。
- ・ チュートリアルやPBLのようなグループ作業を中心とした授業形式（アクティブ・ラーニング）を更に導入していく。

#### 【その他】

授業を円滑に進めていくために、学生も下記の点について確認してほしい。

- ・ 講義内容を工夫しても、学生が定期試験の試験範囲や形式にしか興味を示さないこともあるため、科目内容や重要性に対する興味を持って授業に臨んでほしい。
- ・ 時間をかけて丁寧に作成・整理された講義資料を準備しても、資料が多くなります興味を持ってないという声があるため、学生が授業に関する教科書や資料を事前に読み、積極的な姿勢で学修に取り組んでほしい。

### 2. 2019年度後期

#### 【総括】

#### ■授業方法について

##### [良かった点]

- ・ 「予習・復習など、授業時間以外での学習機会」、「積極的な姿勢で臨み、主体的に学ぶ」ことが増えた学生が、前年度後期より多く見受けられた。

##### [改善点]

- ・ 前年度後期からの比較では、「学生からの総合満足度」に関する項目で微増（3.67 から 3.76）しているが、大学全体の総合計（3.96）との比較では、わずかに低下している。
- ・ 各細目において留意する点は、「板書やスライド、手本や見本は見やすさ」「授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていたか」、「学ぶことの大切さや楽しさ(面白さ)」などが、大学平均または前年度後期と比

較して、低水準の数値となっている。

- ・ そのため、前期に引き続き、授業内・外における実技練習のサポートや学習の理解度に応じた提示できる課題学修も取り入れ、専門職教育の質を向上させる取り組みを検討していく。

## ■授業環境について

### [良かった点]

- ・ 今回のアンケート結果からは特に見受けられない（自由記述欄を含む）。

### [改善点]

- ・ 「学ぶことの大切さや楽しさ(面白さ)」などに触れる科目が少ないため、専門性を活かした学修機会を提供していく。

## 【今後に向けた改善策】

### [科目に対する意見について]

- ・ 各教科とも授業をより理解しやすくするため、視覚教材や配布物など学習ツールの活用を今まで以上に進めていく。
- ・ 学生は、専門知識の理解をすすめていくために、下記の自己学習の方法について、確認してほしい。
  - ①「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」も一因となり、「授業の理解度」の不十分な学生が一部見受けられます。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設を利用し、予習・復習など積極的な自己学習に取り組める環境を整えて下さい。
  - ②「理解不足の原因」を抱える多くの学生からは「勉強の仕方がわからない」、「専門用語が難しい」と聞かれます。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに積極的に相談し、まずは、勉強の仕方を身に付けてください。
  - ③シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

### [授業の進行について]

- ・ 各科目における授業の進行について、授業内の学修内容が理解されやすいように適切な板書やスライド、資料提示などに取り組んでいく。
- ・ 学生は、自身の課題提出や授業外学修が円滑な授業進行に役立つため、下記の点について、確認してほしい。
  - ①課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。
  - ②休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。
  - ③少しずつ相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けて下さい。

## ●東京柔道整復学科

### 《問題となる目立った学生意見》

- ・やる気が起きない
- ・バイトや遊びで勉強時間が取れない
- ・勉強が難しい
- ・寝てしまう
- ・勉強する習慣がない
- ・目的がない

### 《改善が必要とされる点》

- ・授業時間以外の学習時間が少ない
- ・学力の低い学生に対しての指導
- ・目的を持たない学生への指導
- ・学力差のある学生たちに対する講義方法
- ・コミュニケーションが取れない学生への指導
- ・学生の生活習慣

### 《改善策》

- ・授業以外の学習時間については、復習用の資料配布、次回講義時に提出する課題を課すなど
- ・柔道整復師を養成する場所であることを認識してもらい、目的を明確に持ってもらう
- ・自分がやりたい事を中心に物事を考えるのではなく、やるべきことを中心に考えるよう指導する
- ・学力が思うように向上しない学生に対しては、引き続き補講等で指導する
- ・講義において学生の理解を確認しながら進めることを教員側で共通認識する
- ・助言教員より問題がある学生には生活習慣の指導を行い、バイトや遊びではなく学業優先とする
- ・付帯資格を積極時に取得する指導をすることで、目的や進路等における選択肢を増やす

### 《統括》

特に1・2年生に学習習慣がないと言い切る学生が多くみられます。また、バイトや遊びを優先して学習時間が無いと答えている学生も多く、柔道整復師を養成するための学科であり、学習するために大学へ来ているという認識が無いことが強く問題視される。

柔道整復師という職業は、勉強だけでなく患者様と接するにあたり、コミュニケーションの回り方など人間性を問われる内容もあり、実技における能力も強く必要とされるため、総合的な教育の仕組みを構成する必要がある。

## ●看護学科

### 1. アンケート集計結果

#### 1) 単純集計結果より

2019年度に看護学科で開講された授業科目において、教員の言葉の明瞭性に関する質問では、8割以上の学生が「明瞭である」もしくは「ほぼ明瞭である」と回答した。教材が授業の理解を深めるために役に立ったかに関する質問においても、「役に立った」と「少し役に立った」を合わせると8割以上を占めた。授業における教員の熱意については、8割以上の学生が「伝わった」または「ほぼ伝わった」と回答した。授業を通して学ぶことの大切さや楽しさを感じられたかに関する質問では、「感じられた」もしくは「やや感じられた」と回答した学生は7割に上った。授業に対する満足度に関しては、「満足である」と「ほぼ満足である」を合わせると6割強となった。その一方で、予習・復習などの授業時間以外での学習については、「よくした」や「ある程度した」と回答した学生を合わせても5割にとどまった。

#### 2) 自由回答結果より

##### [肯定意見]

「アカデミックな講義を毎回して頂き、どんどん学ぶことが面白くなってきた。」「ビデオを使った授業が多かったので、現場の雰囲気などをつかみやすく、興味をもちながら学ぶことができた。」「プリントがとてもわかりやすかった。」「看護師国家試験に出題される内容や勉強の仕方を教えてもらえて、自分も頑張ろうと感じた。」「いつも愛のある授業をありがとうございます。先生に教えてもらう学生はステキな看護師になると思います。」「声がかきとりやすかった。」「先生の頑張っている姿を見てやる気が出ました。」などの記載があった。

##### [是正意見]

「授業のスピードが速く、メモをしたくても少ししかできないことがあった。」「何を学ばせたいのかよくわからなかった。レポートも何のためにやっているのか、その目的が不明である。」「先生の体験談ばかりで面白いが、授業としてはよくない。」「覚えることが多いので、テストの前にまとめのプリントを作ってほしい。」「授業資料と教科書が対応しておらず、わかりにくかった。」「プリントの文字や語句の間違いが多かった。」「スライドやプリントの内容がわかりづらい。」「配付された資料は分かりやすかったが、説明が少なく自分で理解しなければならず大変だった。」などの記載があった。

### 2. 教員による授業改善策に関する記載例

- ・授業の最後10分程度で、まとめの時間を設ける、重要なポイントには印をつける、看護師国家試験の問題を最後に使ってみる、発声を意識してゆっくり発語をする、などの工夫点を盛り込む。
  - ・本科目を理解するにあたり必要となる基礎知識(人体の構造・機能や疾病の理解)を事前課題に盛り込むようにする。さらに、解剖学・生理学、病態治療学などの内容を講義の中で復習し、病態メカニズムの理解をより高められるよう工夫する。
  - ・授業で使用するスライドの作成においては、KISS(Keep It Short and Simple)の法則に従う。①体言止めを使用し、余計な文字を入れこまず、文字数を減らす、②文章だけであると興味が低下するため、関係性を示す図や視聴覚教材を多く使用する、③基本的に1スライドの説明を行う際に5分以上かかる内容としない、④覚えてほしい内容は文字を大きくあるいは色を変える、⑤リアクションペーパーから得たレジュメへの意見を次の講義の際に反映し常に見やすい資料作りを心掛ける。
  - ・講義時に学生の集中力が下がっている時などは、「直接的に授業とは関係しないが」と前おきをしたうえで、リフレッシュ感を与えられるような話題を提供する。
- などの記載があった。

以上

## ●医療福祉学科

### 1. 学科全体の結果を受けて

医療福祉学科では、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の3つの国家資格の受験資格を得ることができる。1資格のみの受験を目指す学生、2資格の受験を目指す学生もいれば、資格取得を目指さない学生もいる。このように複数のパターンがあるため、学生が履修する科目もさまざまである。このような状況ではあるが、大学全体の平均値と学科全体の平均値に差がない状況となっていることは、学生および教員の努力によるものと考えている。しかし、科目ごとの評価で、“凹み”のある部分についての分析を進め、学科全体として、よりよい授業を提供できるよう努めたいという強い決意を持っている。

### 2. 科目ごとの振り返りと改善策

科目ごとの評価を受けて、以下のように改善策を検討した。

- 学生から概ね「スライド等は見やすく」「授業量も適切で」「授業方法も工夫されていた」と回答を得ているが、数値的には平均前後である。さらに、わかりやすい授業をしていくために、学生の声を聴き、適切に反応していきたい。また、一部の学生から話すスピードが早いことや講義細目との違いがあることが指摘されており、修正しながら対応していきたい。
- 全体を通して、理解する力が低い傾向があるのは学生だけでなく教員の説明の仕方にもよると考える。丁寧な説明、また説明した内容のコメントカード等で理解しているか確認し、個々の学生にフィードバックしていく必要性を感じている。この3点を意識するだけでも、学生が授業に対してモチベーションを上げて参加すると考える。
- 講義系科目で、学生がアンケートについて回答する日の一場面のみを捉えて授業全体の講評を行う傾向にあり、教員の指示を待ち、自ら考えられない学生もいるので、授業の学習秩序を保ち、学生自らが主体的に考えて自律していくことができる指導を行う方法を検討・実施していければ、大学として主体的な学生を輩出でき、社会貢献できると考える。
- 演習科目で、学生のレベル別に振り分けた授業実施を希望する声があった。授業は、週1コマ、教員1名で実施するために希望通りの実施は難しいが、演習方法の工夫と授業時間外のサポートを行うことで、学生の満足度は高まると考えられる。なお、基礎的な学力の違いによる習熟度の差については、演習科目に限らず、全ての科目において教員が意識すべき項目であると考え。全体的なレベルを底上げしつつ、かつ、より専門的な学びの機会を提供することによって、様々な状況における学生の満足度に貢献できると考える。

## ●こども学科

### (授業方法)

#### 説明方法

- ・ 抽象的な(理論)解説は可能な範囲で短縮し、実践に根ざした具体的な説明を多く用いる
- ・ 図解による解説、映像教材を使用し、視覚的に記憶に残るよう配慮する
- ・ 実学的な専門科目では事例紹介を多く導入する

#### 学生対応

- ・ (少人数であるため) 個々の学生の質問や要望をよく聞く
- ・ (学生の学力が様々なため) 可能な範囲で個別対応をし、個々の学生と(授業内容の理解を得るまで) しっかり関わる
- ・ 欠席者の補講処置をする(欠席による学習内容の欠落/不連続を防止する)

#### その他

- ・ クラスの学力に合わせた授業内容/方法になるよう、毎年度見直しを行う
- ・ 個々の学力に合わせた教材や説明方法を複数用意する

### (家庭学習について)

- ・ 知識の確実な習得&定着を図るため、具体的な教材や資料を提示して予習・復習の学習方法を指導する。

## ●学校教育学科

### 1. 全体的な傾向

アンケートに回答した授業科目数は以下の通りである（表1：前期 表2：後期）。

	1年	2年	3年	4年	全体
小学校コース	8	11	6	3	28
理科コース	3	8	7	0	18
保体コース	2	11	10	1	24
英語コース	10				10
理科・保体・英語共通	2	1	1	1	5
全コース共通		1	2	1	4
全体	25	32	26	6	89

	1年	2年	3年	4年	全体
小学校コース	9	10	5	1	25
理科コース	3	6	7	1	17
保体コース	1	9	8	1	19
英語コース	8				8
理科・保体・英語共通	3	2	3		8
全コース共通		1			1
全体	24	28	23	3	78

学科全体をみると、前期はすべての設問、後期は Q3 を除くすべての設問の平均値は、大学全体の平均値より高い。前後期を比較してみると、Q13 を除くすべての設問の平均値は、後期になると低くなっている。

### 2. 学年別・コース別等からみた傾向（Q14 について）

学年別・コース別等における Q14 の平均値（回答者数は無視している）は以下の通りである（表3：前期 表4：後期）。

	1年	2年	3年	4年	全体
小学校コース	4.16	4.34	4.31	4.12	4.26
理科コース	4.05	3.98	4.16		4.06
保体コース	3.87	4.50	3.83	4.78	4.18
英語コース	4.30				4.30
理科・保体・英語共通	4.08	3.53	3.94	3.08	3.74
全コース共通		4.22	4.34	4.71	4.40
全体	4.27	4.24	4.04	4.04	4.12

	1年	2年	3年	4年	全体
小学校コース	4.16	4.11	4.21	4.35	4.16
理科コース	4.33	4.16	4.21	3.58	4.18
保体コース	3.85	4.36	4.20	3.28	4.21
英語コース	4.46				4.46
理科・保体・英語共通	4.16	3.02	3.81		3.74
全コース共通		4.43			4.43
全体	4.21	4.14	4.19	3.83	4.07

学年別にみると、学年が上がるにつれて平均値が低くなっている傾向がある。コース別にみると、2019 年度は 1 年生だけであるが国際英語コースの平均値が高い。また、科目数は少ないが、全コース共通科目の平均値は高く、理科・保体・国際英語コース共通の平均値は低い。

### 3. 自由記述について

前期は 89 科目中自由記述が書かれた科目は 49 科目 86 コメント、後期は 78 科目中 41 科目 92 コメントである。自由記述が書かれた科目と書かれていない科目の Q14 の平均値を比較してみると、前期は記述ありが 4.06、なしが 4.32、後期は記述ありが 3.98、なしが 4.37、と記述ありの平均値が低い。記述内容は、授業に対する要望・不満などが多い傾向にある。

### 4. 今後に向けて

今回は学科全体の結果に加えて、学年別、コース別の結果（Q14）を分析したが、これらの結果は、一つ一つの授業だけではなく、学科・コースのカリキュラムを検討する際の資料となると考える。その中で、前期と比べて後期、下学年より上学年の平均値が低いという傾向をどのようにとらえるかが課題となる。今後は他の設問についても同様に分析したり、学年・コース別だけではなく、科目区分別、必修・選択別などにみた傾向等をみていくことが必要になると考える。

自由記述については、記述ありの科目の平均値が低いことより、当該科目の改善を個々に行っていくことが大切になると思われる。また、自由記述については、授業に対する要望・不満といったネガティブなものではないポジティブな記述は、授業担当者に喜びをあたえ、さらなる授業改善が期待されることより、そういった記述が多くみられるようなアンケートの工夫が必要になると考える。

## 2019年度前期

### 【授業の良かった点・課題など】

#### 授業全体について

- ・ 授業評価によれば、ほとんどの科目において、学生の理解はある程度得られたものと思われる。
- ・ ほぼすべての評価項目で、大学平均を上回っていた。
- ・ ただし、多くの科目で「授業外の学習」のスコアが他項目に比べて格段に低い結果となった。→今後は、復習のための振り返りレポートおよび予習課題など、自宅学習の具体的な課題設定を行う（調べ学習、具体的な書名を挙げて読むことを勧める、教科書・資料等を活用して、予習・復習を課すなど）。現在各期ごとに大きなレポートを課しているが、今後は、小テストや複数の小課題に分割するなど、こまめに学習の振り返りの機会を設けられるように工夫したい。また、授業内で予告なしに行う試験を行うことを告げておき、復習を促すことも検討したい。

#### 個々の科目について

- ・ 今年度は履修した学生が少なかったためか丁寧に学生一人一人に対応が出来た。そのせいか満足度が高い。
- ・ 人数が多く、普通教室での実施をしているため十分に目が行き届かない。私語の注意や教科書や材料・道具の持参など何度も注意しているものの改善がみられない。  
→学習意欲維持のためにも少人数、適正人数による授業（特に演習授業）の実施を検討したい。
- ・ 写真や動画使用、スライド使用が評価されている。ただし、配布資料への記入量が多いという感想が多い。
- ・ 市販されているテキストを使用し、その内容にそって授業を行っているが、内容が難しいようである。  
→シラバス・教授内容・教材、資料等の見直し/向上を図る。
- ・ 複数教員が関わる科目について、教員間のコンセンサスが取られていないという指摘があった。  
→毎回、シラバスに基づき、授業計画、内容を共有しているが、事務作業など細かなところでの共有を図る。
- ・ 1年生前期開講で保育現場に特化した実践的な内容としたためか、アンケート結果からは、いずれの項目も評価が高く、リラックスして履修を終えたことが分かる。ただ、実際には提出物を出さずに単位を落とす学生がおり、アンケートによる授業の感想と教授内容の修得との関連などの結果は現れないのではないかと思う。

### 【アンケート結果に基づいた学生への回答】

- ・ 「あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか」という質問に関する数値が、他の質問項目の数値に比べると、低い値になっていた。しかし、授業内容の理解度を深めるためにも予習を行い、復習をして知識を定着させて欲しい。授業外での学習の進め方についてはシラバスに記載している。
- ・ また、授業の進度を緩めて欲しいとの要望があった授業でも、授業以外の学習の割合が少なかった。シラバス記載の内容を実施するため、また、カリキュラム上、進度を緩めることはできない。繰り返しになるが、次回の教授内容に関する予習を行い、内容についての予備知識を得て授業に臨んでほしい。

## 2019年度後期

### 【授業の良かった点・課題など】

- ・ 授業評価によれば、ほとんどの科目において、学生の理解度はある程度得られたものと思われる。
- ・ ほぼすべての評価項目で、大学平均を上回っていた。
- ・ 授業方法の工夫
  - ◇ 毎回の授業時に前回授業内容の学習ペーパーを配布し、復習する機会を与えた。次年度も継続して行っていく必要がある。
  - ◇ ビデオを活用し、関わったことがない内容を視覚的に示し、理解を促すことができたと考える。
  - ◇ 実際の保育と幼児の育ちを映像で見ながら解説することで、具体的な理解を促すことができた。
  - ◇ 保育指針についての学習は不可欠であるが、どうしても機械的学習に陥りがちで、再考の余地が大いにある。
- ・ 「達成感」「成就感」「満足感」に裏打ちされた実践力の強化の実施
  - ◇ 表現発表会を実施し、学生は「達成感」「成就感」「満足感」を獲得できたと考える。これは表現者としての保育者養成、表現者としての子ども、いずれにとっても大切なことである。次年度以降カリキュラム改編により、本授業ではなくなるが、他の授業でも学生の「達成感」「成就感」「満足感」を求めていきたいと考える。
  - ◇ 他授業との連携による子ども向け劇創作、保育内容、指導計画についての講義ののち、個人の教材製作

とそれを用いた模擬保育を授業の中心とした。前期の保育内容の学修をもとに実践力の育成に特化した授業ができたと考える。次年度以降は附属保育園での学生の作品発表など、学外での実践を取り入れることを検討したい。

◇ 知っておくべき基本的な保育教材について伝えることができた。

・ 学生の授業参加の取り組み

◇ 事前学習のグループワーク課題を与え、学習機会と復習する時間を確保した。

◇ ロールプレイで模擬実務体験を実施し解決策を考えさせる機会を設けた。

◇ 新聞記事の切り抜きを配布し、解説しながら質疑応答を行った。学生の反応は、この取り組みが最も好きだったとのコメントがあり、手法が新鮮で関心が高まったと好評であった。

◇ 履修者数が8名と少なく、アクティブラーニングを主に展開できたことは大きいと考える。

◇ 内容としてはかなり専門的なものであったが、少人数授業のため、学生の理解度を確認しながら授業を進めることができ、それが“理解度”や“学ぶことの楽しさ”の項目の数値にあらわれたのではないかと思う。授業以外の学習については低い値となったが、実際には学生に過度の負担にならないような課題を頻繁に出していた。なぜこの項目の値が低かったのかについては、今後他の教員の科目の課題等を聞くなどして検討したい。

◇ 順番を決め、各自が事前に調べた課題について発表する時間を毎時間の最初に設け、その評価も学生たちが共通の評価シートで行った。空きコマのあとの月曜日5限の開講だったが、出席率も良好で、ほぼすべての評価項目で大学平均を上回った。24名と少人数であったこと、聴衆（学生）とのやり取りを取り入れた学生の発表が多かったことが、授業の雰囲気作りを促し、学ぶことの楽しさ、全体の満足度を上げたと思われる。時間外の学習は3.6と平均を上回ったが、これはほかの学生の発表に触発され、自身の発表課題に取り組んだことが大きな要因と考えられる。

◇ 学生の積極的授業参加を促すために、講義の一部において、反転授業を実施するための模索が必要と思われる。ただし、反転授業を可能とするハード面、および講義者自身の技術面にも不安がある。

・ オムニバス科目の新設科目であった為、想定しきれぬことが多々あった。しかし、表現3分野の教員がそれぞれの見地から授業を展開できたことはよかった。次年度はより詰めた想定で取り組みたい。

・ 授業以外の学習の時間について

◇ 学年を2クラスに分けて実施したが、授業外の学習時間に大きな開きがあった。授業内容、指導内容は同じであるため、今後原因を探り、検討の必要がある。

◇ 負担になる分量にならないよう配慮し課題を出したが、授業以外の学習の項目が低かった。

◇ 家庭学習の内容を考え、授業時間外の学習の時間を増やしていきたい。

◇ 学生の自学自習へのインセンティブを喚起できていない。

### 【アンケート結果に基づいた学生への回答】

- ・ 教員は、授業実施にあたって学ぶ楽しさを伝えられるよう、様々な工夫をしています。「達成感」「成就感」「満足感」は、積極的に授業に参加する（熱心に聴くことも含め）ことで高まります。
- ・ 授業外学習の時間を作り、復習の習慣をつけて下さい。配布されたプリントを読み直し、内容を確認・理解するようにしてください。
- ・ 日頃より、保育教材へ関心を持ち、自ら教材研究に取り組む姿勢を身に付けてほしい

以 上

## ●総合教育センター

### 【1】授業に対する評価結果と課題

#### (1)回答の概要

- ・授業科目による回答傾向には大きな違いはなく、全体平均とほぼ一致していた。
- ・授業科目の違いにかかわらず、授業外学習の時間が少ない傾向が共通していた。
- ・授業内容の理解度に関しては、多くの学生が「理解できた」と回答していた。

#### (2)改善すべき課題

- ・スライドの提示と切り替えのスピードが速い。
- ・授業に積極的に取り組む学習意欲がわからない。
- ・授業中の私語が気になる。
- ・予習・復習が足りない。

### 【2】課題に対する改善策

- ・学生の理解度を確認しながら、ゆっくり・しっかり説明して授業を進める。
- ・学生の理解度の幅を考慮して授業の進行を調整するため、理解度に応じた課題を準備する。
- ・グループワークを取り入れて主体的な参加を促し、授業に対する積極性と集中力を養う。
- ・授業外学習の方法としてのノート整理と課題発見、配布資料の読み返し等の指導を強化する。
- ・初年次教育として大学で学ぶために必要な技能を教える科目の設置なども検討する。

### 【3】その他の改善策

- ・アンケートを全科目で行うと回答する学生の負担が大きくなり回答が雑になると考えられるので、負担を軽減するために、対象科目を1教員につき1科目にするなどの改善策も求められる。
- ・自由記述欄には「良かった」「悪かった」だけでなく、「なぜそう思ったか」という具体的な理由も記述するよう促す工夫があれば、授業の改善が具体的に進められる。
- ・匿名性が担保されているアンケートは、言いにくいことを書けるという利点が一般的にはあるが、その一方で匿名性に隠れた無責任な回答が生じる可能性も否定できない。成績には一切影響しないことを明示した上で、記名式で責任をもって回答を書いてもらう考え方もある。

## ●教職センター

### (1) 総合的見解

- ・東京西キャンパスと千住キャンパスともに、アンケートの総合満足度が高く、一定程度の満足度を保障した授業が実施できたといえる。
- ・満足度が高い理由として、従来のチョーク&トークだけに頼らず、学生の主体性を引き出す教育方法(学生間の討論や模擬授業、グループワーク)を積極的に取り入れた点が挙げられる。これらの取り組みは、自己肯定感の向上と学生間の人間関係の構築に貢献するとともに、教職の実践的指導力にもつながるため、今後も活用していきたい。

### (2) 課題と改善策

- ・授業時間外の学習に関して、平均値程度の結果に留まった。  
【改善策】安易に授業外の課題を課すことは加重的負担を強いることになりかねない。まずは、シラバスに記載した予習・復習を実施し、授業内に指定した課題等を一つ一つ丁寧に実施し、教職の意義を理解させていきたい。また、授業外で課題図書を与えることも一つの手段である。
- ・自由記述欄が空欄の科目がみられた。  
【改善策】学生には匿名でコメントをする貴重な機会であることを説明し、記載を促したい。
- ・「専門用語が難しい」「授業のポイントが不明」という回答が若干数みられた。  
【改善策】専門用語の厳選や説明方法を再検討する必要がある。説明を聞いてわからないことがあれば、コメントシートに質問を書く、あるいはオフィスアワー時に質問するよう促したい。
- ・アンケートの記述欄に「もっと学べることがある」との記述もあり、意欲的な学生の期待に応える必要がある。  
【改善策】個別の学習要求や興味関心に合わせたかたちで、授業内で関連書籍を紹介し、興味のある内容について掘り下げられるようなアドバイスを継続していきたい。

### (3) その他

- ・必修科目等の重なりで、履修が大変な様子が見られた。

## ●医学教育センター

### <基礎医学系科目（解剖学・生理学など）>

全体的に授業内容の理解度が低い科目が多く、重要な範囲やポイントをさらに絞ることが必要と感じるが、国家試験において1科目での出題数が圧倒的に多く範囲も広い科目でもあるため、新カリキュラム移行に伴い授業時間数が減少したことも理解度に関係していると考えられる。また、初見の専門用語が1回の授業で100や200を超えることは当たり前であり、まずは専門用語に対する拒否感を減らすために専門用語の解説を丁寧に行うことが必要である。ただし、解説が多くなれば学生はただ茫然として諦め、少なくなれば単なる記憶作業となってしまう、やはり拒否感を強めることになるため、予習復習を前提としたレポートや小テストを用いて学生の理解度を都度確認しながら講義を行うことが必要である。理解を深めるためには、学生が陥りやすいことではあるが、科目単位での理解に留まり各科目の内容理解の結合ができない点においても着目し、各科目において重複する内容であるとしても丁寧に講義する必要があると思われる。ただし、各科目の内容理解の結合という点については、そもそも各科目での内容の分量が多いため、理解の結合を行うためのヒントを与える程度にとどまってしまうのが現状である。また、最も楽しい作業である各科目の理解の結合は各科目を理解した上で行われるべきではあるが、授業内容の進行を各科目の教員間で共有する等も合わせて行い、学生の理解が深まるよう努めたい。

### <臨床医学系科目（内科学・整形外科学など）>

基礎医学系科目同様に全体的に授業内容の理解度が低い科目が多かった。学生にとって未知の世界である臨床（医療）の世界についてまずはイメージを持ってもらい、平易な言葉や説明を使うなどの取り組みを行っておおむね一定の満足感を得られている印象ではあるものの、一部の学生からは内容量の多さや難しさ、進行の速さなどの意見が上がっており、授業内容に十分ついて行けない学生がいる懸念を持っている。授業内容は国家試験出題範囲で規定されているため内容を削減するのは困難ではあるが、授業冒頭で要点を明示する、国家試験との関連をその都度指摘するなどして、学習意欲の持続を促した上で、さらに学生への説明、スライドの図、自作の参考資料の内容などをできるだけ分かりやすいものにし、授業以外での予習復習もしっかり取り組んでもらえるよう努めたい。

### <まとめ（学生の皆さんへ）>

医学教育センター教員の担当する科目の多くは医療科学部各学科の国家試験に直結する内容であるため、学生・教員ともに心身の負担が大きいと思いますが、各学科とも調整を行いながらより効果のある授業を展開していきたいと考えています。今はまだ難しいと感じるかもしれませんが、臨床現場に出る時には当然理解している知識として求められるものです。学生の皆さんにも将来の自分を見据えながら、授業内容が難しい・多い・早いと諦めるのではなく、教員に積極的に質問するなどして、果敢に取り組んでもらいたいと思います。